東海口腔衛生学会ニュース

No.72　　2013・1・7

笑って、歩いて、健康づくりは　まちづくり

幹事　榊　原　康　人

名古屋市では現在、健康増進法の市町村健康増進計画にあたる、健康なごやプラン21（第2次）を平成25年度に開始するため、外部委員による健康なごやプラン21推進委員会において審議を重ねていただいています。11月に開催された第3回の会議において、計画全体のサブタイトルを、「笑って、歩いて、健康づくりは　まちづくり」とすることが採決されました。

これはあくまで私個人の勝手な解釈ですが、「笑って」は、まさしく歯の健康。「歩いて」は、ロコモティブシンドローム対策。「健康づくりは　まちづくり」は、ソーシャルキャピタルの考え方を示しています。この意見を早速、市役所の上司に伝えたところ、笑いながらも納得して、メモに残してくれと指示されました。会議の事務局を務める行政側の一部にとっては、いくつかあった無難な案が除かれて、これが選ばれたのは少々驚きだったようです。

歯科保健の分野が、市町村健康増進計画を代表する最重要項目になるとは思いません。しかし、市民の健康づくりの根幹となる、重要な計画であるからには、このサブタイトルのように、歯科保健の分野が先頭に立つ意気込みで、策定に携わっていきたいと考えています。市民が健康に笑えるためには、歯の健康が不可欠です。

偶然なのか必然なのか、今この時に健康日本21（第2次）の開始と、歯科口腔保健法に基づいた基本的事項の時期が重なりました。これまで必死に理論的根拠や戦略を探すことに、時として苦労してきたこの分野の推進について、その後押しとなる根拠法令は、十分すぎるくらい与えられたことになります。

歯科口腔保健法が理念法であると言われるがゆえ、実施したい施策の後ろ楯としてある程度自由に解釈し、主張することも可能かもしれません。その自由に伴って、私たち歯科専門職に課される責任は重いものとなってきます。5年後の中間評価及び10年後の再改定の時にその責任を果たし、笑って歩いて健康づくりをしていられるような、行動をしていかなければと考えています。

（名古屋市健康福祉局健康部健康増進課）

［総　会　記　録］

第55回東海口腔衛生学会総会

日　　時：平成24年7月22日（日）
場　　所：朝日大学歯学部

第55回東海口腔衛生学会総会は、石川　昭氏を学会長として、去る平成24年7月24日（日）、朝日大学歯学部において、約70名が参加して開催された。当日は、昨年度まで愛知学院大学歯学部口腔衛生学講座の教授であられ、今年度名誉教授になられた中垣晴男先生による「口腔衛生学を学んで42年―東海口腔衛生学会に期待するもの―専門家の責任」と題した特別講演が行われた。中垣先生の永年のご活動を1時間にまとめてお話しをされるのは非常に難しいことだったと思われるが、講演の内容を大別して、わかりやすく説明してくださり、改めて先生のご活動に感銘を受ける内容であった。そのほか、2題の口演発表があり活発な議論と意見が交わされ、盛会であった。

特別講演

口腔衛生学を学んで42年

―東海口腔衛生学会に期待するもの―専門家の責任

中垣　晴男
（愛知学院大学　名誉教授）

１．8020 運動と市町村・学校保健活動

20年前から始まった“80歳で自分の歯を20歯以上もとう”という、「8020運動」の調査から、80歳で20歯を保有するためには、生涯を通じて食習慣や生活習慣に気をつけることが大切であるということが明らかになった。また愛知県飛島村の研究から、8020に達成するためのツール「歯の健康づくり得点」票が開発できた。村では、1999年から成人住民の歯の健康づくりプログラムを開始し、6か月ごとに5年間使用できる歯の健康づくり手帳（飛島村通称“歯のさわやか健康手帳”）を使用し、ほぼ10年過ぎている。本歯の健康づくり得点は愛知県、三重県の健康増進計画に取り入れられている。さらに、市町村や産業保健の現場で使用されるようになっている。さらに、幼稚園、小学校、中学校、および高等学校版も開発され使用されていて今後が楽しみである。

２．エナメル質生検法開発と学校歯科保健活動

口腔衛生学講座に入室した日に、榊原教授から、齲蝕活動性試験の宿主（歯）因子を測定するエナメル質生検法（enamel biopsy）開発をするようにと研究テーマをいただいた。その後、約10年かかったが、酢酸緩衝液を用いた「生検法としてのエナメル質溶解性測定法」を開発することができた。学校歯科医の藤垣先生のご協力を得て、愛知県のある小学校児童に個別指導の方法の一つとして応用し、そのスクリーニング法としての有用性を確認する研究を20年ほど継続できた。その個別指導の活動は現在も継続中で、その小学校で開始したフッ化物洗口（450ppmF 週一回）が愛知県内に普及し現在10万人を超す子どもがフッ化物洗口を行っているのはうれしい。

３．学校歯科医活動の支援

学校、学校歯科医の先生方と一緒に、CO、GO、（MO）を学校歯科保健の現場への導入研究を、岐阜県東濃地区、名古屋市で行ってきた。その活動は、CO、GO の学校現場への導入を支援した形となった。名古屋市では、特別検診活動として、その後歯肉炎予防のツール開発とその展開を行ってきた。本年、名古屋市学校歯科医会は創立80周年を迎え、さらに、デンタルフロスの指導法マニュアル開発を行うことになっている。

４．科学すきな子を育てる

1983年英国より帰ると、当時の酒井歯学部長から名古屋市科学館に生命に関する西館を創る計画があり、歯科から展示委員として参加するようにと指示され

た。1989年に従来の天文館、理工館、に加えて「生命館」がスタートした。その中で、出産のビデオを見ることができるようになったことと、歯科では「六歳臼歯をしっていますか」という16mm映画を小渡小学校のご協力で作成する機会を得た。たった2分30秒だが最初で最後（？）の映画監督を経験した。なお、その後、博物館は「生きている」こと（活動）が大切という考えで、翌年の1990年から、児童生徒対象に、歯や口腔を教材に楽しく科学好きな子が育つようにという、「歯のびっくりサイエンス」を開始した。ボランティア（びっくりボランティーズと呼ばれる）の歯科医師、歯科衛生士、養護教諭あるいは、それぞれのその学生たちで、毎年年一回実施し、昨年の2011年で22回を行うことが出来た。歯や口腔を教材で田中耕一氏、益川　敏英先生、野依良治先生のようなノーベル賞受賞者までもいかなくても、科学好きな子が育つことを願っている。

５．研究・教育・臨床活動

三重県朝日町水道水フッ化物添加の評価（1970）、caries activity test（enamel biopsy）開発（1970−）、Abrasive micro−sampling 法の開発と展開（1982、Oral Biofilm、remineralization 研究（1970−）、8020疫学研究と歯の健康づくり得点開発（1989−）、社会疫学研究（life course、 common risk、 inequality、 social capital、 SOC、 dental floss）、そして fluoride optimal intake や tooth erosion 研究などを行ってきた。また、本学の口腔衛生科臨床の特徴は歯科医師と歯科衛生士のチームワークである。1978（S53）年（アルマ・アタ宣言が提唱された歴史的な年）から、1歳6か月児や3歳児の健康診査の保健所見学実習を開始した。また、2年生では「タバコがない社会を実現する」、「21世紀の歯科医師の責務」などをテーマに問題解決学習としてブレーン・ストーミング、KJ 法でまとめ、発表し質疑を受けることを行っている。さらに、3年生の「社会と歯学実習」では、春期の4月に6−7名の班で研究テーマを決め、4−5月に調査実験し論文をまとめ、6月に発表（パワーポイント使用、12分、質疑8分）、常勤・非常勤の教員が内容・発表・考察・質疑回答について評価するという実習を行っている。昨年7月に開催された東海口腔衛生学会総会では2チームが発表を行い、質問に対して適切な回答を行うことができ、まさに”Learning to be”と思っている。

６．健康科学の今後の方向

健康科学から今後の歯学の進む方向は、なぜ疾病になったかでなく、どのように健康を保ったかを調べる健康創造（サルトジェニシス）研究、ライフコース疫学、健康格差（社会疫学）研究、共通生活習慣病リスク予防、地域社会の絆力（ソーシャルキャピタル）研究へと進めることが肝要である。また、健康政策は疾病への対応のみならず、健康決定要因へ対策が重要であること、現在の日本人の健康を大切にする意識はまだ高くなく、これが歯科医療需要の現状に関係していると考えられる。したがって、我々は人々が歯や口腔の健康の大切さをもっと認識できるように支援努力が必要である。すなわち、歯科臨床における予防的処置・保健指導、及び公衆歯科衛生の向上にさらに努力する必要があり、歯学はもっと、人々が自ら健康を守る態度習慣育成に努力すべきある。野依良治先生のお言葉をお借りすると、歯学の“専門家の責任”といえよう。

７．自らの反省と東海口腔衛生学会に期待するもの：専門家の責任

歯科医師法には“歯科医療と保健指導を掌ることによって、公衆衛生の向上と増進を図り、もって国民の健康な生活を確保するもの”とあるが、今国民は歯科保健の向上について十分情報が伝えられていないと思う。A 県の成人約4,000名の調査結果から、今日でも定期的に歯科医師の定期チェック受診は3割で、5割の人は痛い時に歯科医師へ行くと回答している。また歯周病の開始点、すなわち歯間部歯肉炎の予防のために必要なデンタルフロスの使用率は5％であると日本の現実をつらく思う。8020はスタートして20年たったが、キャンペーンの運動に終らないようにしなくてはならない。さらに、学問的に立証する介入研究まで未だできていない。日本全体もそうであるが、愛知県の「健康日本21あいち計画」の結果では、20歯以上の方が増加し、歯石除去を受診する人が増加傾向にあるが、とても国民、県民の健康増進は先進国として十分

とは言えない。自分自身42年間口腔衛生学を学んでも、実は本当に健康づくりに寄与できていなかった。まさに「専門家の責任」を反省している。

そこで、東海口腔衛生学会の皆様に次のように期待する。東海地方は全国的にも、健康づくり先進地域であるが、さらにその先を進めていただきたい。健康づくりの Upstream、 not downstream への志向は、対象年齢についても言える。高齢者への対応や予防が強調されがちであるが、法体系が不備な青少年から若い成人への働きかけや活動が大切である。学校保健、地域保健、産業保健と行政範囲を超え連携してプログラムを展開してほしい。願わくば、10年後にそのプログラムが採用された法律ができるくらいになってほしい。高齢者は downstream、小児や青少年は Upstream と考えて、生涯保健という立場で活動を展開してほしい。すでにフッ化物洗口運動はその良い例であると思う。それが、人々の健康づくりに寄与する歯科関係者の「専門家の責任」と思う。

今回体力的限界にて現役を退くことは、後ろ髪をひかれる（もっとも後ろ髪がないが）。幸い、東海口腔衛生学会の皆様は大志をお持ちなので、これからを期待する。

終わりに、永年の諸先生や皆様のご支援を感謝し、皆様の今後の益々のご発展とご健勝、そして、本会の益々の発展を祈念する。

一般口演

１．8020 達成者地域活動支援（kataribe）事業

佐藤理之
（愛知県歯科医師会）

8020達成の最初のステージである幼児期の歯科保健教育の現状を把握するために、平成22年に愛知県内の幼稚園・保育所の園歯科医を対象に調査を実施した。その結果、歯科保健教育を実施していたのは29％であった。また、実施方法は絵本・紙芝居が30％であった。幼稚園・保育所における歯科保健教育の活性化のために、最も多く行われていた紙芝居による歯科保健教育用教材を製作した。平成23年度には製作した紙芝居と地元の8020達成者の健康体験談を語る活動を112園において行った。活動後の調査では99％の園が実施して良かったと回答し、園児が歯について話すことがあったと回答した園が67％、歯みがきをするようになったと回答した園が53％であった。今後も本活動を続けたいと回答した園は95％で、紙芝居は子どもたちが真剣に聞き入っていたなどの意見が挙げられ、保護者が参加する会での活動希望の意見も見られた。今後、保護者も含めた保健教育を行うことにより効果的な地域支援活動をめざしたい。

２．小学校でのフッ化物洗口によるう蝕予防効果の持続性 −2004~2011 年の成人式記念歯科健診の結果から−

山本昂直[1)]、長谷川慶[1)]、田中智子[1)]、井上憲哉[1)]、
上嶋実保[1)]、佐藤しおり[1)]、岩田幸子[2)]、廣瀬晃子[2)]、
石津恵津子[2)]、大橋たみえ[2)]、磯﨑篤則[2)]　([1)]朝日大学
歯学部　歯学科４学年　[2)]朝日大学歯学部　口腔感染医療学講座　社会口腔保健学分野）

1975年度から瑞穂市の穂積地区４小学校においてフッ化物洗口を実施している。洗口終了後の評価として、1988年度より成人式において成人歯科健診を実施している。この穂積地区は2003年度5月、巣南地区と合併し瑞穂市となった。そのため2004年度以降の成人式には、小学生時代フッ化物洗口を実施した穂積地区と、フッ化物洗口未実施の巣南地区の成人が参加することになった。

そこで、穂積地区ならびに巣南地区の20歳時点の歯科健診結果を比較し、小学校6年間でのフッ化物洗口によるう蝕予防効果の持続性を明らかにすることを目的に検討した。

今回は、2004～2011年度の瑞穂市成人式歯科健診を受診した男子548名、女子387名の合計935名を研究対象とした。このうち、フッ化物洗口を実施した穂積地区4小学校に6年間在籍していた656名（男子385名、女子271名）をＦ群、フッ化物洗口未実施の巣南地区3小学校に在籍していた279名（男子163名、女子116名）を非Ｆ群とした。

フッ化物洗口群は非洗口群に比較して、DMFT 指数が明らかに低く、う蝕のない者も明らかに多いことが確認され、小学校でのフッ化物洗口のう蝕予防効果が持続していることを認めた。

［総会記録］第55回東海口腔衛生学会総会承認事項

第55回総会において以下のような事項が承認、可決されました。

Ⅰ　開会
Ⅱ　議長選出
Ⅲ　報告
　a）庶務報告
　　第54回総会のお知らせ（2011.5.20）
　　常任幹事会（2011.5.29）
　　幹事会（2011.7.24）
　　第54回総会の幹事への報告（2011.8.1）
　　平成23年度例会のお知らせ（2011.11.11）
　　臨時常任幹事会（2011.12.10）
　　臨時幹事会（2012. 1.22）
　　会員数、名誉会員、幹事　①
　b）事業報告
　　第54回総会（2011.7.24）　②
　　平成23年度例会（2012.1.22）　③
　　ニュース№69（2011.7.8）
　　ニュース№70（2012.1.6）
　c）日本口腔衛生学会報告
Ⅳ　協議
　a）平成24－25（2012－2013）年度幹事　④
　b）平成23（2011）年度歳入歳出決算　⑤
　c）平成24（2012）年度事業計画　⑥
　d）平成24（2012）年度歳入歳出予算　⑦
　e）日本口腔衛生学会　2013－2014年度
　　（代議員・理事）選挙について　⑧
　f）その他

①会員数、名誉会員、幹事（2012.3.31現在）

会員数（正会員）

	歯科医師	歯科衛生士	その他	合　計
愛知県	77	32	1	110
岐阜県	54	14	2	70
三重県	11	3	0	14
静岡県	22	21	1	44
その他	13	0	1	14
合計	177	70	5	252

名誉会員

原　学郎　中野圭子　可兒瑞夫　可兒徳子　岡田直治
若林幸枝　堀せつ子　（７名）

平成23（2011）年度幹事

	旭　律雄		◇高橋　秀徳
	足立　正孝	静岡県歯理事	竹内　純子
	安藤　彰吾		竹原あづさ
	飯野新太郎		田村　清美
愛知県DH会長	池山　豊子		塚原　邦秋
	◇井後　純子		柘植　紳平
	◎○石川　昭		☆○坪井　信二
	○石津恵津子	岐阜県DH会長	土井美由紀
	○石濱　信之		外山　康臣
	＊○磯崎　篤則	三重県歯副会長	中井　孝佳
	犬飼　順子		○中垣　晴男
	岩田千鶴子		中島　民惠
	大橋たみえ	愛知県歯常務理事	中西　康裕
	岡崎やよい	静岡県歯副会長	西原　和行
	岡田東洋志		野口　俊英
	小澤　晃		野々部憲志
	○小澤　亨司		野村　隆之
	柏木　雅宣	岐阜県歯理事	野村　岳嗣
	加藤　一夫		酡島　弘之
	加藤　尚一		橋本　雅範
	加藤　友久		原　康二
	北川　順子		久田せつ子
	栗嵜　政子		藤山　快恵
	高阪　利美		藤原　愛子
	近藤　保子		古谷みゆき
	榊原　康人		前田　尚子
	坂本　友紀		増田美恵子
	佐藤　厚子	岐阜県歯常務理事	松村　康正
	篠宮　眞琴	三重県歯会長	峰　正博
	芝田登美子		向井　正視
	清水　里子		○村上多恵子
	杉山　桂子		森田　一三
	杉山　乗也		山田小枝子
岐阜県歯会長	高木　幹正		吉村　文信
	高田　勇夫	愛知県歯会長	渡辺　正臣

（◎会長、☆会計、＊幹事長、○常任幹事、◇監事　（70名））

②第54回東海口腔衛生学会総会

日　時：平成23年７月24日（日）
場　所：愛知学院大学歯学部
内　容：一般演題　３題
　　特別講演
　　『消化管がんの予防は口腔衛生から始まる』
　　愛知県がんセンター研究所
　　所長　田島　和雄　先生
参加者：約70名

③平成 23 年度東海口腔衛生学会例会および臨時総会

日　時：平成24年1月22日（日）

場　所：朝日大学歯学部

内　容：　一般演題　5題

特別講演

『口腔の健康の社会的決定要因』

東北大学大学院歯学研究科

国際歯科保健学分野

准教授　相田　潤　先生

参加者：約60名

④平成24・25（2012・2013）年度幹事

	旭　律雄		◇高橋　秀徳
	足立　正孝	静岡県歯理事	竹内　純子
	安藤　彰吾		竹原あづさ
	飯野新太郎		田村　清美
愛知県DH会長	池山　豊子		塚原　邦秋
	◇井後　純子		柘植　紳平
	◎○石川　昭		☆○坪井　信二
	○石津恵津子	岐阜県DH会長	野々垣静子
	○石濱　信之		外山　康臣
	＊○磯崎　篤則	三重県歯副会長	中井　孝佳
	犬飼　順子		中垣　晴男
	岩田千鶴子		中島　民恵
	大橋たみえ	愛知県歯常務理事	中西　康裕
	岡田東洋志	静岡県歯副会長	西原　和行
	小澤　晃		野口　俊英
	○小澤　亨司		野村　隆之
	柏木　雅宣	岐阜県歯理事	野村　岳嗣
	○加藤　一夫		酡島　弘之
	加藤　尚一		橋本　雅範
	加藤　友久		原　康二
	北川　順子		久田せつ子
	栗嵜　政子		藤山　快恵
	高阪　利美		藤原　愛子
	近藤　保子		古谷みゆき
	榊原　康人		前田　尚子
	坂本　友紀		増田美恵子
	佐藤　厚子	岐阜県歯常務理事	松村　康正
	篠宮　眞琴	三重県歯会長	峰　正博
	芝田登美子		向井　正視
	清水　里子		○村上多恵子
	杉山　桂子		森田　一三
	杉山　乗也		山田小枝子
岐阜県歯会長	高木　幹正		吉村　文信
	◇高橋　秀徳	愛知県歯会長	渡辺　正臣

（◎会長、☆会計、＊幹事長、○常任幹事、◇監事　(67名)）

⑤平成23（2011）年度歳入歳出決算

(2011. 4. 1～2012. 3. 31)

収入

項目	決算額(円)	予算額(円)	執行率(%)
繰越金	731,498	731,498	100. 0
会費	452,000	526,000	85. 9
補助金	80,000	80,000	100. 0
雑収入（利息）	470	596	78. 9
合　計	1,263,968	1,338,094	94. 5

支出

項目	決算額(円)	予算額(円)	執行率(%)
総会費	89,880	150,000	59. 9
例会費	140,675	150,000	93. 8
通信費	152,270	160,000	95. 2
ニュース(No69、70)	75,600	100,000	75. 6
会議費	24,584	50,000	49. 2
ホームページ管理費	3,780	3,780	100. 0
研究倫理審査委員会運営費	320	30,000	1. 1
事務費	50,000	50,000	100. 0
雑費	34,708	20,000	173. 5
予備費	0	624,314	—
繰越金	692,151	—	—
合　計	1,263,968	1,338,094	94. 5

繰越金　692,151（円）

（内訳）

現金	100,238
大垣共立銀行	214
ゆうちょ銀行	455, 054
ジャパンネット銀行	136,645
	692,151（円）

財産目録

運営基金　ゆうちょ銀行　1, 000, 000（円）

監査報告書

東海口腔衛生学会
会 長　石 川　昭 殿

東海口腔衛生学会の平成23年度決算各項について監査を行った結果、その正確かつ適正なることを認めます。

東海口腔衛生学会

平成24年4月11日　監事　井後純子

平成24年4月12日　監事　高橋秀徳

⑥平成24（2012）年度事業計画

1．第55回東海口腔衛生学会総会

日　時：平成24年7月22日（日）

場　所：朝日大学歯学部

内　容：一般演題

特別講演

『口腔衛生学を学んで42年

―東海口腔衛生学会に

期待するもの―専門家の責任』

愛知学院大学

名誉教授　中垣　晴男　先生

2．　ニュースの発行（№71, 72）

3．平成 24 年度東海口腔衛生学会例会

日　時：平成25年1月20日（日）

場　所：浜松市地域情報センター

内　容：一般演題

特別講演

⑦平成24（2012）年度歳入歳出予算

収入　　単位は円

項目	24年度予算額	23年度予算額	増減
繰越金	692,151	731,498	△39,347
会費	504,000	526,000	△22,000
補助金	150,000	80,000	70,000
雑収入	470	596	△126
合　　計	1,346,621	1,338,094	8,527

支出

項目	24年度予算額	23年度予算額	増減
総会費	100,000	150,000	△50,000
例会費	150,000	150,000	0
通信費	160,000	160,000	0
ニュース(No71, 72)	100,000	100,000	0
会議費	50,000	50,000	0
ホームページ運用費	3,780	3,780	0
研究倫理委員会運営費	30,000	30,000	0
日本口腔衛生学会選挙費用	70,000	―	―
事務費	50,000	50,000	0
雑費	20,000	20,000	0
予備費	612,841	624,314	△11,473
合　　計	1,346,621	1,338,094	8,527

⑧日本口腔衛生学会　2013−2014 年度（代議員・理事）選挙実施

1．代議員（定員 19 名）の選出

日本口腔衛生学会　東海地区の会員数　愛知県 141 名　静岡県53名　岐阜県56名　三重県11名（2012年3月末）

代議員の有資格者　愛知県102名　静岡県45名　岐阜県45名　三重県10名　（2012年3月末）

会員数を勘案し、代議員数を県別に、愛知県10名、静岡県4名、岐阜県4名、三重県1名とする。

選挙方法：

1）代議員資格を有する（会員歴4年以上）の会員に、代議員立候補の案内を送付する。

2）代議員立候補者が定員数を超えた場合に選挙を行う。

（ア）すべての県で立候補者数が定員数を超えた場合は、それぞれの県別に選挙を行う。

（イ）すべての県で立候補者数が定員数を超えず、欠員を生じた場合は、4県の有資格者から互選により選出する。

（ウ）立候補者数が定員数を超えず、欠員を生じている県がある場合は、立候補者数が定員数を超えている県の立候補者で欠員を補充する。

2．理事の選出

理事は代議員19名から互選により選出する。

平成24年度東海口腔衛生学会例会プログラム

平成24年度東海口腔衛生学会例会を下記のプログラムにて開催いたします。会場は、浜松市地域情報センターです。駐車場がございませんので、公共交通機関をご利用いただくか、東田町地下駐車場（有料）をご利用ください。皆様、お誘い合わせの上多数ご参集ください。

日　時：平成25年1月20日（日）　13:30～15:30

場　所：浜松市地域情報センター　ホール（1F）
〒430－0929　浜松市中区中央一丁目 12-7
TEL　053－457－2720　　URL : http : //www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/

一般口演（13:30～14:15）

座長　　石津恵津子　幹事

13:30　1）掛川市におけるはみがき教室による「保護者の歯に対する意識変化」を知る
〇藤山快恵（静岡県西部健康福祉センター）

13:45　2）介護施設における口腔ケアプログラムの実施とその評価　第一報
〇 大橋稲子[1)]、田代悦章[1) 2)]、小宮山ひろみ[2)]
[1)]たしろ歯科医院
[2)]学校法人染葉学園　静岡歯科衛生士専門学校

14:00　3）歯周疾患検診拡充の取り組みと8020達成率の試算について
〇榊原　康人[1)]、柏木　雅宣[2)]、森田　一三[3)]、加藤　一夫[3)]
[1)]名古屋市健康福祉局健康部健康増進課
[2)]名古屋市中村保健所保健予防課
[3)]愛知学院大学歯学部口腔衛生学講座

特別講演（14:30～16:00）

座長　　石川　昭　会長
「予防歯科臨床に未来はあるのか」
岡山大学大学院医歯薬学総合研究科予防歯科学分野　教授　森田　学　先生

※日本歯科医師会生涯研修事業認定研修会　研修コード　76464
※日本歯科衛生士会特別研修　D自己学習コース（自己申告）

東海口腔衛生学会ニュース　No. 72　　2013年（平成 25 年）1月7日　発　行
発行者　〒501-0296　瑞穂市穂積1851　朝日大学歯学部口腔感染医療学講座社会口腔保健学分野内
東海口腔衛生学会（石川　昭会長）　URL : http://www.geocities.jp/tokaikoe/
編集者　磯　﨑　篤　則　　電話（058）329-1497　　FAX（058）329-1497　　E-mail : tokaikoe@yahoo.co.jp
印　刷　〒503-0908　大垣市西外側町2-15　ニホン美術印刷㈱　電話（0584）78-2171